

各関係機関団体の長  
各病虫害防除員 殿

福岡県病虫害防除所長

平成24年度病虫害発生予報第10号（1月）について

このことについて、病虫害発生予報第10号を発表したので送付します。

予報第10号

1月における主な病虫害の発生動向は、次のように予想されます。

主な病虫害の発生予報概要

作物名	病虫害名	発生量 (現況)	発生量 (1月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
冬春イチゴ	うどんこ病 ハダニ類	少 やや少	少 少	並 少
冬春ナス	すすかび病	並	並	少
冬春トマト	葉かび病	少	少	並
冬春キュウリ	べと病 うどんこ病	少 並	少 並	少 少
野菜共通	ミナミキイロアザミウマ コナジラミ類	多 やや少	多 やや少	並 並

<予想される向こう1か月の天候（平成24年12月15日～平成25年1月14日）>

平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は低いでしょう。降水量は平年より多いでしょう。日照時間は平年より少ないでしょう。

週別の気温は、1週間目は平年並みで、2～4週間目は平年より低いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	50	30	20
降水量	30	30	40
日照時間	40	30	30

（福岡管区气象台 平成24年12月14日発表抜粋）

## 作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。

注②：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

### 【野菜：冬春イチゴ】

#### 1 うどんこ病

##### (1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

##### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった（-）。

発病株率 0.1%（平年 0.8%、前年 1.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている（±）。

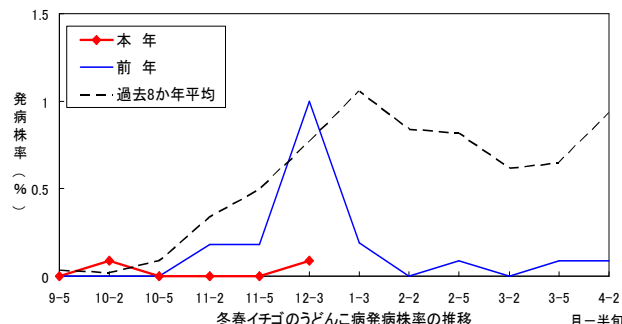
##### (3) 防除上の注意

ア 早期発見に努め、下葉かぎ後、薬液が葉裏にもかかるように丁寧に散布する。

イ ハウスの換気を行い、湿度の低下を図る。

ウ 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

エ 農薬の使用及び散布等にあたっては、p 6の内容を確認の上、適切に実施する（以下の病害虫についても同様）。



#### 2 ハダニ類

##### (1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

##### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

寄生株率 5.7%（平年 7.6%、前年 10.6%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている（-）。

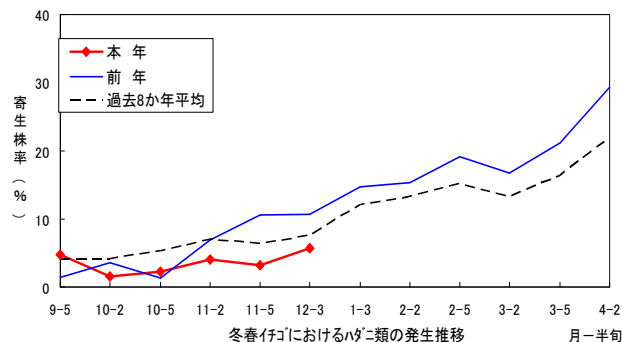
##### (3) 防除上の注意

ア 本種は、はじめスポット的に発生し、下位葉ほど寄生が多いので、葉かぎ等の管理作業時によく観察し、発生を認めたら早めに防除を行う。

イ 防除は摘葉後に行くと効果的である。その際葉裏に薬剤が十分にかかるようにする。

ウ ほ場内と周辺の除草を徹底する。また、摘葉や除草した雑草は、ほ場内に放置せず、ビニル袋に入れ密閉して処分する。

エ カブリダニ類等を放飼しているほ場では、天敵に対して影響の少ない殺ダニ剤を散布する。



### 【野菜：冬春ナス】

#### 1 すずかび病

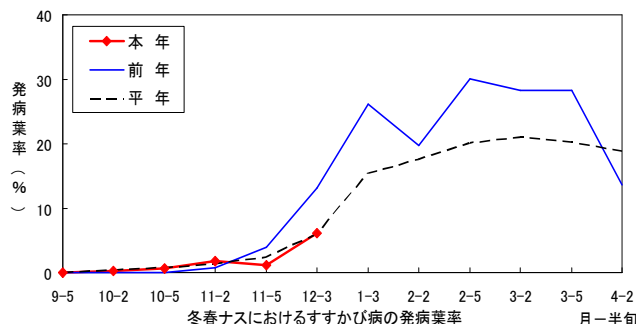
##### (1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少

##### (2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。

発病株率 6.1%（平年 5.9%、前年 13.1%）



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(±)。

(3) 防除上の注意

- ア 多湿条件下で発病が進展・増加するので、施設内の換気を図る。
- イ 病徴が進展してからでは防除が困難なので、発病初期に防除を徹底する。
- ウ 発病葉はできるだけ除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- エ 薬剤耐性菌の発生を防止するため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

【野菜：冬春トマト】

1 葉かび病

(1) 予報の内容

発生量：平年より少、前年並

(2) 予報の根拠

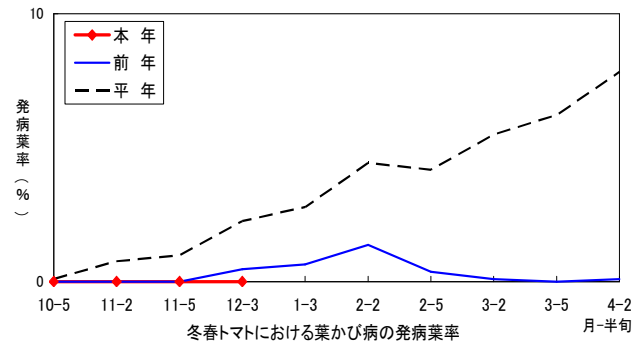
ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

発病葉率 0% (平年 2.3%、前年 0.5%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(±)。

(3) 防除上の注意

- ア 薬剤は葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- イ ハウスの換気を行い、多湿にならないように管理する。
- ウ 肥料切れを起こすと発生しやすくなるので、適正な肥培管理を行う。
- エ 抵抗性品種での発生も確認されているので、抵抗性品種を栽培しているほ場でも、葉かび病の発生に注意する。



【野菜：冬春キュウリ】

1 べと病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より少

(2) 予報の根拠

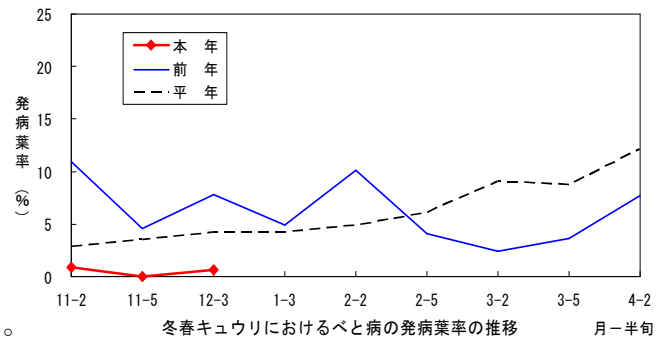
ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

発病葉率 0.7% (平年 4.3%、前年 7.8%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(±)。

(3) 防除上の注意

- ア 病勢が進展してからでは防除が困難であるため、初期防除を徹底する。
- イ 肥料切れや成り込みによる草勢の衰えは発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。



2 うどんこ病

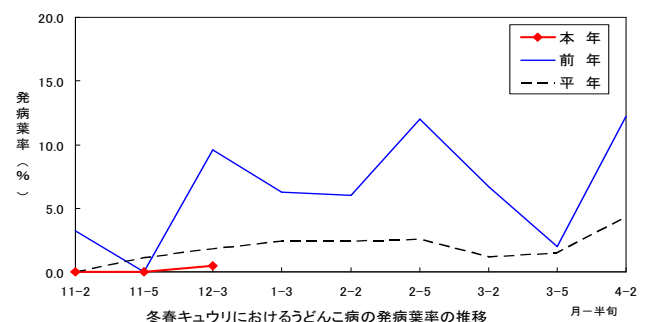
(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年より少

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量は平年並であった(±)。

発病葉率 0.5% (平年 1.8%、前年 9.6%)



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(一)。

(3) 防除上の注意

- ア 罹病葉はできる限り除去するとともに、葉の裏側にも十分かかるよう丁寧に散布する。
- イ 窒素肥料の多用は本病の発生を助長するので、適正な肥培管理を行う。

【野菜共通】

1 ミナミキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査結果、発生量は平年より多かった(+)。

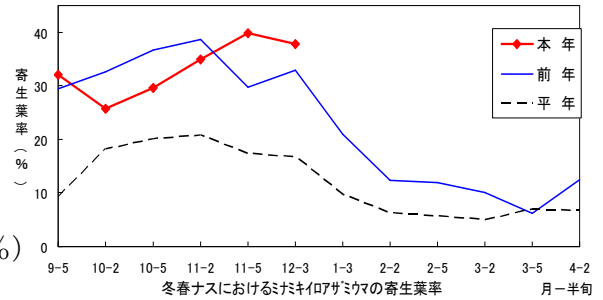
ナス寄生葉率 37.8% (平年 16.8%、前年 32.9%)

ナス発生ほ場率 100% (平年 76.7%、前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(一)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉裏への寄生が多いので、散布むらがないように丁寧に散布する。また、多発した場合は、約一週間後にもう一度薬剤散布を行う。
- イ ほ場内外の雑草を徹底して除去し、害虫の生息、増殖源を絶つ。
- ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を控え、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 コナジラミ類

(1) 予報の内容

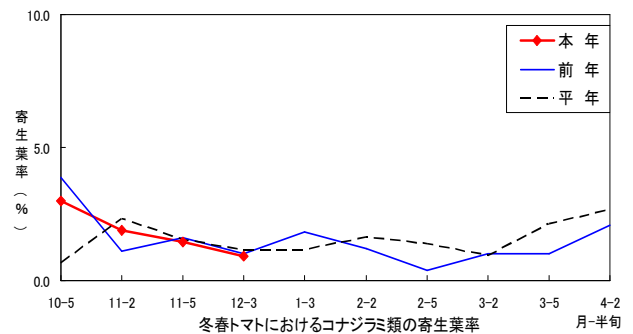
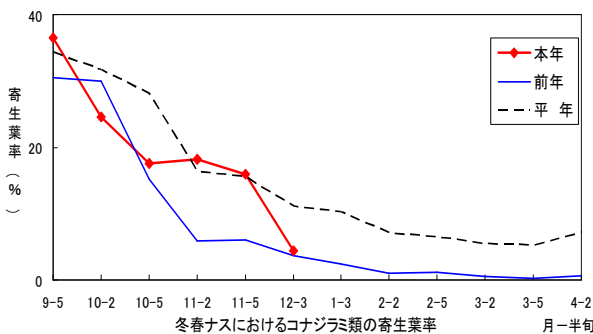
発生量：平年よりやや少、前年並

(2) 予報の根拠

ア 12月3半旬調査の結果、発生量はナスでは平年より少なかった。また、トマトでは平年並であった(±)。

ナス寄生葉率 4.4% (平年 11.1%、前年 3.7%)

トマト寄生葉率 0.9% (平年 1.2%、前年 1.0%)



イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年より低く、降水量は平年より多いとされている(一)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア ほ場内外の雑草の除去を徹底し、害虫の生息と増殖源を絶つ。
- イ 幼虫や蛹が寄生している下位葉は、できる限り除去する。
- ウ 葉裏や下位葉にも、薬液が十分かかるよう散布する。
- エ 施設栽培では成虫の飛び込み防止のため、0.4mm目以下の防虫ネットを隙間なく張る。
- オ トマト黄化葉巻病(TYLCV)の罹病株は、早期に抜き取りほ場外へ持ち出す。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (1月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
冬春イチゴ 灰色かび病	並	並	並	・罹病果は感染源になるので、見つけ次第除去する。また、下葉かぎを随時行い、株間の通風を図って湿度を低下させる。
冬春ナス 灰色かび病	やや少	並	並	・開花後の萎れた花卉、罹病葉や罹病果実は、伝染源となるので早めに除去し、ほ場外へ処分する。
冬春トマト 灰色かび病	並	並	並	・開花後の萎れた花卉、罹病葉や罹病果実は、伝染源となるので早めに除去し、ほ場外へ処分する。
冬春キュウリ 灰色かび病 褐斑病	並 やや少	並 やや少	並 並	・開花後の萎れた花卉に、灰色のかびを認めたら防除を開始する。 ・初期防除を徹底する。
冬キャベツ 菌核病 黒腐病 コナガ	並 並 やや少	並 並 やや少	やや少 並 並	・罹病株はただちに抜きとり処分する。形成された菌核は、ほ場へ残さないよう、ほ場衛生に努める。 ・結球期前の防除を徹底する。
冬レタス 灰色かび病 菌核病 腐敗病	並 並 並	並 並 やや少	並 やや少 並	・トンネル内が過湿にならないように、朝夕被覆の開閉を十分に行い、換気に努める。

# 農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では農薬の安全かつ適正使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮等、関係機関、団体と一体となって取り組みます。

散布者の安全はもちろん、人・作物・有用昆虫・環境に対する配慮について、指導を願います。

なお、「ベンゾエピン」を含む製品（商品名：マリックス、チオダン）が平成24年4月から使用禁止農薬になりましたので、併せて指導を願います。

## 1 農薬ラベル確認の徹底

（適用作物・使用量や濃度・使用時期・総使用回数）

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する

（例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる）

## 2 散布前における情報提供の実施

※事前に周辺住民や養蜂関係者へ農薬使用に関する十分な周知に努める

## 3 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止対策の徹底

※風、散布方向、散布時間、散布圧に留意

※飛散しにくい農薬（剤型）や、飛散が少ないドリフトレスノズルを使用

※散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意

## 4 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を3回洗浄

## 5 防除履歴の正確な記帳

※薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布年月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳

## 6 空容器の適正な処分

※野焼きは法令で禁止されているので行わない

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>  
電子メール [kfok0301@sp.jppn.ne.jp](mailto:kfok0301@sp.jppn.ne.jp)